日薬理誌 **124**，193（2004）

関東部会　市民公開講座
『糖尿病が招く心臓・血管の病気　―予防と治療薬の最新知識―』

静岡県立大学 薬学部 薬理　**中山　貢一**
（第110回日本薬理学会関東部会長）

日本薬理学会主催市民公開講座は6月5日(日)に，前日（6月4日）の第110回関東部会の静岡での開催に合わせて静岡県立大学大講堂において行われました．当日は朝方，小雨が降りましたが，開場時刻の午後2時には，空も晴れて，約300名の参加者がありました．地元の新聞や広報誌，放送局等における本講座開催予告や，駅，病院，医院，薬局等へのポスター掲示を依頼しました．

前日の関東部会における循環系の話題として取り上げたシンポジウム「セリン/スレオニンキナーゼ阻害薬の基礎と臨床への展開」に呼応して，虚血性循環疾患の危険因子の一つであり，生活習慣と深く関係し，市民の関心も高い糖尿病と心臓・血管の病気をテーマとしました．

約2時間半にわたる公開講座のはじめに，橋本敬太郎先生（山梨大・院医・薬理，日本薬理学会理事，前理事長）に市民へのご挨拶を頂きました．続いて4人の専門家にそれぞれの立場からお話しいただきました．神原敬文先生（静岡県立総合病院長）には「糖尿病が招く動脈硬化と心臓病」について，その概略と，予防のために何をすべきか，何をすべきでないか，また，心臓病の診断法についてお話し頂きました．西澤茂先生（浜松医大・脳神経外科助教授）には「糖尿病が招く神経・脳血管の病気」について，脳血管の動脈硬化と脳血管性痴呆などを分かりやすくお話しいただきました．最新の診断法や脳外科手術の実際を，動画も交えて提示していただきました．小野孝彦先生（静岡県立大・臨床薬剤学教授）には「糖尿病腎症の診断と対策」についてお話しいただきました．末期腎不全に移行し，腎透析を新規導入する病因の第一位が糖尿病腎症であることと，治療の基本が血糖と血圧の管理，タンパクの過剰摂取を控えることや腎保護とレニン−アンギオテンシン系などについてお話しいただきました．土屋　厚先生（呉服町土屋内科院長）には糖尿病学会専門医・指導医の立場で「現在使われている糖尿治療薬」についてお話しいただきました．現在，使われている糖尿病治療薬は，内服で使用する経口血糖治療薬と注射で使用するインスリンに大別されるが，いずれも，食事・運動などの自己管理を十分に行わないと効果が上がらないことを強調されました．

講演された先生方にはそれぞれに作成されたコンピュータ画像を液晶プロジェクターを用いて分かりやすく投影していただきました．また，当日，市民に配布した講演要旨集には，要旨，ご略歴に加えて，「市民へのメッセージ」も一言書いていただきました．

講演を踏まえて，質疑応答（Q & A）を行いました．熱心な質問が相次ぎました．例えば，不整脈が原因で血栓が出来，それが脳血管に詰まって脳塞栓になると言うことですが，どうして，不整脈だと血栓が出来るのでしょうか？とか，糖尿病における突然死のピークが男女で差があるのはなぜですか？などの問いがありました．

本市民講座の目的の一つは，若者への薬理学会の学術活動の啓蒙と次世代の薬理学の担い手を一人でも多く育てるために，まずは薬理学と言う語句やその分野に興味を持ってもらうことにあります．当日の参加者の登録名簿から見ますとこのたびの市民公開講座には，200名近くの学生も含まれ熱心に聴講や質問もしていました．最後に，薬理学へのご理解と一層のご支援を，講座参加者と講演された先生方にお願いし会を終えました．今後も，市民の要望に応えて内容の一層の充実と，市民公開講座が，薬理学を将来学んで，専門分野としてくれる若者を一人でも多く育てる入り口としての役割を，各地で果たせればと思います．

市民公開講座モニュメント

公開講座　Q & A の様子